

市政モニター
通信から

ボランティアの育成・教育を

市では市政モニター制度を設け、市政についてさまざまなご提言やご意見をいただいています。平成十一年度のテーマは福祉行政。今回は、市政モニターの江川さんからいただいたご意見を紹介します。



江川明美さん（中里）

「市政モニター通信」から

個人でボランティアに参加したいと思っている人も多くいます。近くにある福祉施設などで個人でもボランティアとして受け入れてもらえるのでしょうか。また、これからボランティアをしてみたいと思っている人のためにも、ボランティアの育成・教育をさらに進めてほしいと思います。

【市長からの回答】

ご提言ありがとうございます。まず、個人でも福祉施設でボランティア活動へかかわることができるかどうかとの質問ですが、基本的にボランティアの経験の有無にかかわらず、施設ではボランティアを受け入れてくれます。ただし、「どのような活動ができるのか」「活動できる時間帯や日数」など事前に施設側と連絡を取り合っただけで無理のない

計画を立てる必要があります。

ボランティアの育成・教育については、現在、社会福祉協議会で「ボランティア講座」や「福祉講演会」を開催したり、ボランティア活動資機材の援助やボランティア研修支援を行ったりするなど、ボランティア育成に努めています。また、小・中・高校生を対象に、福祉施設での福祉体験講座のほか、要請によって福祉講演・講話を出前で行うなど福祉教育を進める活動も行っています。

ボランティアの育成や福祉教育は大変重要なことです。市として今後も支援していきたいと考えています。

なお、ボランティアについての相談や問い合わせは、保健女性センター三階にある「富士市ボランティアセンター」(☎六四一七一〇〇)で行っていますので、気軽にお問い合わせください。



富士市にロシアの文化を伝える

今野・マキーバ・オリガさん

(鶴無ヶ淵)



日本と隣り合う国・ロシア。オリガさんは、ロシアのウラジオストクから、五年前に結婚を機に富士市にやってきた市内では数少ないロシア出身者です。富士市日口友好協会主催のロシア家庭料理教室の講師を務めたり、中学校から招かれて子供たちにロシアの生活や文化を紹介したりするなどして、日本とロシアをつなぐ文化交流活動を行っています。



▲吉永北公民館で行われた成人講座に講師として参加

シベリアのクラスノヤルスクに生まれ、その後ロシア各地で暮らしてきたオリガさんにとって、日本の冬は「暖かくてびっくりした」ほど。富士市について伺うと、「富士市の人は優しくていい人が多い」と感じているそうです。四歳になる子供のお母さんでもあるオリガさんは「ただいま子育てで大忙し。家でつくる日本料理は「みそ汁」と照れながら答えてくれました。オリガさんは、「今では日常生活での会話に苦労することは少なくなりましたが、もっと日本語を覚えて仕事につけるように、日本語の勉強を続けています。これからも自分が協力できる限り、富士市とロシアとの交流の役に立てればと思っっています」とやわらかい語り口で話してくれました。